

# RSVワクチン判断ガイド

こもれび

子育てをもっとやさしく

2026年版

赤ちゃんを守る選択肢を1枚に

出産予定日: \_\_\_\_\_ かかりつけ医: \_\_\_\_\_

## RSVワクチンとは？

RSV（RSウイルス）は乳児の細気管支炎・肺炎の主な原因です。2026年4月から妊婦向けワクチン「アブリスボ」が定期接種（無料）になり、出生前に赤ちゃんへの免疫を届けられるようになりました。

## アブリスボ vs ベイフォータス 比較

項目	アブリスボ（ファイザー）	ベイフォータス（サノフィ/AZ）
形式	妊婦に接種する母子免疫ワクチン	乳児に直接投与するモノクローナル抗体
定期接種化	2026年4月～定期接種（無料）	任意接種（自費・数万円）
対象	妊娠28～36週の妊婦	生後初回のRSVシーズンを迎える乳児
投与方法	1回 筋肉注射（妊婦の上腕）	1回 筋肉注射（RSVシーズン前に乳児へ）
有効性	生後90日以内: 81.8%予防 / 180日以内: 69.4%	重症RSV下気道感染を約75%予防
持続期間	出生後約6ヶ月（胎盤経由の抗体）	約5ヶ月（1シーズンカバー）

## アブリスボの副反応

副反応	頻度	詳細
局所反応（注射部位の痛み・腫れ）	約70%	数日で軽快。日常生活に支障なし
全身反応（倦怠感・頭痛・筋肉痛）	約40～50%	1～2日で改善するケースが大半
早産リスクへの懸念	—	治験で早産の報告あり。WHOは妊娠32週以降を推奨。日本は28～36週で承認

### 積極的に検討すべき場合

- ✓ RSVシーズン（秋～冬）に出産予定
- ✓ 上にきょうだいがいる（感染リスク高）
- ✓ 保育園への早期入園を予定している
- ✓ 多胎妊娠（低出生体重リスク）
- ✓ 妊婦自身に喘息・呼吸器の持病がある
- ✓ 定期接種で無料のうちに接種したい

### 慎重に相談すべき場合

- ▲ 妊娠28週未満（対象外）
- ▲ 切迫早産と診断されている
- ▲ 過去のワクチンで重いアレルギー歴あり
- ▲ 妊娠経過に心配な所見がある
- ▲ 接種タイミングに不安がある場合
- ▲ → 必ずかかりつけ医と相談してください

## 医師への質問メモ

## 接種のタイミング

- 妊娠28～36週が接種対象期間
- RSVシーズン（8～1月）の2ヶ月前が理想
- 抗体が胎盤を通過するまで約2週間
- 出産直前でも間に合いますが早めが安心

## 副反応への備え

- 接種翌日は安静にできるスケジュールに
- 痛み止めは産科医に相談してから服用
- 発熱が38℃以上なら医療機関に連絡
- 接種部位を冷やすと腫れが軽減します

## 相談のヒント

- 「私の出産予定日だと最適な時期は？」
- 「早産リスクについてどう考えますか？」
- 「ベイフォータスとの違いは？」
- 「他のワクチンとの同時接種は可能？」